

保存画像からの想い出

2014.01.03

久家 隆男

私は若いときから山や旅行に行くときは必ずカメラを持参している。2002年からデジカメを使い始め、撮った画像は個別のフォルダーにメモリーし、バックアップとして数年前まではCD-RWに保存し、最近撮った画像はUSBメモリーに保存していた。

昨年10月に思いも掛けない病になり、しばらくの間は山に行けなくなつたので暇を持て余すようになった。そこで、滅多に見ないCD-RWの画像を見てみたら、つまらない画像が多数ある。そこで、CD-RWとUSBメモリーの全ての画像を見直し、不要な画像は削除し、残しておきたい画像のみをポータブルハードディスクに保存することにした。フォルダーが400以上あったので画像は5千位あり、その取捨選択に時間が掛かったが、どうにかやり終えた。

古い画像を一つ一つ見ていると、当時の状況が昨日の様に想い出される。記憶に残る山行が多数あるが、その中で2005年10月に行った山久会50回記念の西吾妻山が格別に記憶に残る。

このときは10名の方が参加したので、記憶に留めている方が多いと思うが、参加しなかった方のために簡単に行程を説明する。

山形県の米沢から白布湯本までタクシーで行き、白布湯本から1本のロープウエイと3本のリフトを乗り継ぎ、北望台（約1,820m）に登った。ここから登山道を南下し、西吾妻山（2,035m）、西大巔（1,992m）を縦走した後、展望園地（約1,390m）まで一気に下った。ここでゴンドラに乗ってグランデコスキーリゾートに下り、迎えのマイクロバスで裏磐梯国民宿舎に行き宿泊した。

この山行が格別に記憶に残るのは、リーダーとして反省しなければならないことが多々あったからである。

西吾妻山は深田久弥の日本百名山の一つである。百名山志向の多くの人は各々の山頂に達することのみを目的とするので、最も短い時間で登頂することを考える。即ち、登山口から山頂まで最も楽に登れるコースを往復する場合が多い。西吾妻山も同様であり、多くの人が前述のコースで西吾妻山か西大巔まで行き、同じ道を引き返すと思われる。

北望台から道標が各所にあり、登山道は良く整備されていて、我々は西大巔まで何事もなく進んだ。西大巔の山頂の前方に小さな道標と下る道が見えたので、この道を下ればゴンドラ乗り場がある展望園地に着くものと一瞬思った。しかし、道標には白布峠、早稲沢とあり、ゴンドラ乗り場へ下る途中にこのような地名はなかった筈だ。念のために持参した地形図を見たが、これらの地名は載っていない。そこで、昭文社の地図を広げて探したところ、我々が下る方向とは全く逆の方向で遙かに離れた所にこれらの地名があった。地形図には西大巔山頂から下る道が4本あり、その内の1本は西吾妻山から我々が登って来た道である。前方の道以外に下る道は見当たらない。

今日は出発時に晴れていたが途中で雨になり、西大巔に登る途中で止んで一安心していた。しかし、下る道を探しているうちに再び降ってきたこともあり、次第にあせる気持ちが湧いてきた。



白布峠と早稲沢は互いにかなり離れているので山頂から下る途中で分かれる筈で、ゴンドラ乗り場へも前方の道を下れば途中で分岐があるかも知れないとも考えた。しかし、そうだとすればゴンドラ乗り場か展望園地の表示がある筈で、これがないのは違う道だろうと

考え直した。山頂からゴンドラ乗り場へは南方に下るので、コンパスで前方の道標の道を確認すると、南西を向いている。これにより、ゴンドラに下る道は前方の道でなく、先ほど登って来た途中にあったのかも知れないと考えた。そこで、登って来た道を一人で戻ってみると、直ぐに尾根の分岐に道標が見つかった。小さな道標なので、登って来るときに目に入らなかった。

なお、後日に気づいたことであるが、昭文社の地図にはゴンドラ乗り場へ下る分岐が山頂よりほんの僅か西吾妻山側に描かれている。但し、この地図を見ても、よほど目の良い人でないと気が付かないだろう。地形に関しては地形図の方が勝るが、登山道に関しては昭文社の地図の方が正確な場合がある。

尾根を下りながら左方を見ると、西吾妻山方面は雨雲に隠れ始めてきた。樹林帯に入ると天候悪化により薄暗い。やがて、露岩や木の根を踏んで下るようになり、段差が大きな所もあって歩き難い。更に、雨で濡れてきたために滑りやすい。誰もが黙々と下っている。歩きながら腕時計を見ると15時15分だ。ゴンドラの運行は16時までだが、乗り場に16時に到着できるかどうか不安になってきた。そこで、最終のゴンドラ出発時刻を10分位遅らせてもらうように、サブリーダーの山口さんに先行して依頼してもらうこととした。但し、万が一のことを考えた場合に一人では不安なので、もう一人を募ると直ぐに松本さんが手を挙げて同行してくれた。二人は我々の前を足早に下って行った。

私はメンバーにゴンドラ運行時刻を話し、もう少しピッチを上げるように頼んだ。悪路は未だ未だ続いている。私は今までより足早に歩いたが、後を歩いている橋本さんが辛そうで遅れ気味だ。メンバーの中で最高齢の78歳位だったと思うが、休憩なしの下りで疲れが出てきたのだろう。橋本さんには申し訳ないが、ゆっくり下ることも休憩することもできず、そのまま下り続けた。やがて、暗くなりヘッドランプを点けて歩くようになった。

暫くしてヘッドランプで照らされた前方の道が異常に感じた。登山道というより水路の様に見える。私は進むのがためらわれ、道を間違えたかとの考えが一瞬頭をよぎり歩みを止めた。そのとき

後方で「こっちだよ！」という山下さんの声が聞こえた。急いで戻ると小さな道標があり、下ってきた道が右に急カーブしている。ゴンドラ乗り場に近くなつてから南方向への道が南西方向に逸れることを地形図を見て覚えていたので、ゴンドラ乗り場は近いと安心する。やがて、小さな建物の前で手を振っている二人の人影が目に入った。山口さんと松本さんである。トップの私が着いたのが15時28分、ラストの人が着いたのが16時2分であった。

ゴンドラは期待通りに出発时刻を遅らせてくれていて、10名全員が無事に乗ることができ、心底からほっとした。

しかし、このようなことになったのはリーダーとして全体のタイムコントロールが拙かったことが原因だと考える。この結果、ゴンドラの最終时刻16時に対して西大巔を出発したのが14時35分になり、西大巔からの下りにコースタイムで1時間15分掛かるのに10分しか余裕が取れなかつた。1時間15分掛かるコースでは少なくとも1回は休憩するので、10分休憩すれば16時に着くための余裕が全くなくなってしまう。従って、西大巔からの出発は15分早い14時20分か、遅くとも10分早い14時25分にすべきであった。

そこで、我々のコースタイムを詳しく検証してみた。

先ず、米沢着が8時33分だが、朝立ちでこれより早く着くのは殆ど不可能である。従って、タクシー、ロープウェイ、リフトを乗り継いで北望台に10時6分に着いたのは順調のタイムと考える。また、北望台から西大巔までの我々のコースタイムは昭文社のコースタイムと比較してほぼ同等である。一方、休憩時間は、昼食休憩を除いて10分以上が何回もあった。具体的には北望台で11分、西吾妻山で14分、西吾妻小屋で12分、西大巔の登りの途中で10分、西大巔で10分である。また、5分以下の休憩も数回している。北望台ではストレッチ体操や出発準備をしたので、11分は止むを得ない。むしろ短い位だ。気になるのは、西吾妻山、西吾妻小屋、西大巔の登りの途中、西大巔の休憩時間であり、これらを合計すると46分になる。この4か所の休憩時間が5分であれば合計20分となり、西大巔からの出発は26分早くなる。しかし、10名のパーティだと休憩場所にトップが着いてからラストが着くまで2分位は時間差が生ずる。従って、休憩時間を7分とすれば4か所の休憩時間の合計が28分となり、これでも西大巔からの出発は18分早くなる。即ち、西大巔から14時20分頃に出発できて、ゴンドラの最終时刻16時に対して1時間40分あり、コースタイムの1時間15分と比較して25分の余裕があった。

なお、このように短時間の休憩にできなかった理由を考えると、西大巔まではアップダウンが小さく、周辺の視界が良いコースだったので、のんびりした気分になつていたことがある。更に、天候が晴、雨、曇、雨と目まぐるしく変わったこともあり、雨具を着たり脱いだりする時間のためにも余分な休憩時間を取りってしまった。加えて、西大巔山頂では前述のように私の事前検討不足によりゴンドラ乗り場に下る道を見つけるのに時間が掛かったこともある。

山口さんと松本さんが先行してゴンドラの最終出発时刻を遅らせるように頼んでくれたので無事に下山できたが、もしゴンドラに乗れない状態になつたらゴンドラ乗り場からゴンドラ下り場まで歩くしかない。昭文社の地図に道の表示がありコースタイムは約1時間40分であるが、これは日中の普通の状態の時間であり、暗闇の中で濡れて滑りやすい道を下つたら、この時間ではとても歩けないだろう。また、肉体的にも精神的にも疲れ、かなりきつくなる。更に、磐梯側から西大巔に登る人の大半はゴンドラを利用すると思われる所以、この道は利用者が少なく荒れているかも知れない。このようなことを想像すると、最悪の場合は悲惨な状態になつたかも知れな

い。

その他に、我々がゴンドラ乗り場に着いたとき、先行していた山口さんが「久家さんに電話したが、掛からなかった。」と言った。米沢でメンバー全員が揃ってからケイタイの電池消耗を防ぐために電源をOFFにしておいたのだ。山口さん達は15時40分頃にゴンドラ乗り場に着いたそうで、ゴンドラの出発時刻を遅らせてくれことになった朗報を私に早く伝えたかったとのこと。山口さん達が先行した後に私はケイタイの電源をONにすべきであった。パーティが2分したときは通話可能な状態にしておくことは鉄則であり、気が急いでいたせいかすっかり忘れていたのは私の失態であった。

以上により得た教訓は、「下山後にゴンドラやリフト等に乗る場合は、必ず最終運行時刻を事前に調べておき、充分な余裕を持って到着するようにすべきだ」ということである。

また、下山後にバスに乗る場合が多いが、この場合はバスの最終運行時刻を事前に調べておいた上に、タクシー会社の電話番号も調べておくべきである。